

ふくしの風

大分市社会福祉協議会 No.28(令和4年3月発行)

市社協発！
校(地)区社協活動情報！
今回は両面あります♡



つながる・ひろがる 地域福祉活動

～令和3年度地域福祉推進委員研修会(テーマ別研修会)～

令和3年度は様々な地域福祉活動が行われていることを知っていただく機会として、地域福祉推進委員をはじめ各校(地)区社協の役員やボランティアの方々を対象に、4つのテーマ別に研修会をおこないました。それぞれの研修会の内容を一部ご紹介します！

地域のつながりを絶やさないために！

概ね自治会単位で実施している地域ふれあいサロン(高齢者サロン)をはじめ、市内には様々な「地域住民の集いの場」があります。こうした集いの場の実践者から活動状況を報告していただきました。〔令和3年11月1日(月)開催〕

活動事例を一部紹介します

【つるさきカフェ はなみずき】

- ・鶴崎校区の方なら誰でも参加可能！
 - ・参加費は1回100円
 - ・校区公民館で毎月1回開催(第2月曜日)
 - ・鶴崎校区社会福祉協議会の取り組み
- ※新型コロナウイルスの流行状況により、開催判断をしています。



【サロン交流会の開催】

各校(地)区社協が中心となって、地域内の各サロン運営者等の皆さんで情報交換の場を設けています。

情報交換の内容(例)

- ・人気のプログラム
- ・参加者や協力者の募集方法
- ・サロン運営における悩み など



〔参加者からの感想〕

- ・各サロン間の交流があると良いように思います。
- ・コロナ禍における活動の工夫やあり方について考えさせられた。
- ・高齢者の皆さんが真に何を必要としているかを知ることが出来ていないので、まずはそこから…と思います。

みなさん工夫を重ねながら、地域で行う「集いの場」を継続しています。

訪問型支援活動の輪が広がっています！

高齢者が抱える生活上の小さな困りごと(電球の交換等)への支援を、住民によるボランティア活動として取り組む地域が増えてきています。既に取り組みを行っている地域の活動状況について報告していただきました。〔令和3年9月28日(火)開催〕

仕組みについて

- ・困りごとを抱えた高齢者等への支援を行うボランティアの調整を行う校(地)区社協が増えています。
- ・10カ所(こうざき、松岡、南大分、城南、荏隈、三佐、丹生、判田、寒田、鷲野)で取り組んでいます。(令和4年3月現在)



質疑応答での意見(一部抜粋)



活動を依頼した方とボランティアとの調整を行う際に、心掛けていることはありますか？

- ・事前の活動内容の確認を依頼者とボランティア双方にしっかり行うことで、トラブル防止に努めています。
- ・ボランティアで対応が出来ないと判断したものは、他の団体(シルバー人材センターなど)を提案することもあります。…など



活動に協力してくれるボランティアや依頼者の募集はどのようにしていますか？

- ・チラシの全戸配布を行いました。
- ・地域内の広報誌を活用して定期的に周知を行っています。
- ・回覧を使い、2か月に1度活動状況を報告しています。
- ・自治会長や民生委員から紹介してもらうこともあります。…など



〔参加者からの感想〕

- ・他校区の活動状況がわかった。参考にしていきたい。
- ・まず一番に生活上の困りごとを抱えている人を調査することから始めていこうと思いました。
- ・地域の方々の取組が素晴らしい。みんなが輪になり取り組むことが大事ですネ。

困ったときに助けてくれる人が近くにいると思えると、なんだか安心！

裏につづく…

社協とは？を知ってもらうために

市内では概ね小学校区単位で45カ所の校（地）区社会福祉協議会が組織されています。それぞれの活動状況を周知していくため、国立大学法人大分大学大学院特任教授の佐藤由美子氏と、大分合同新聞社地域連携室長の三股秀明氏をお招きし、広報活動の意義やポイントをご講義いただきました。〔令和3年10月18日（月）開催〕



〔国立大学法人大分大学大学院特任教授 佐藤由美子氏〕

- 誰のために作るのか、何のために作るのかを意識して作ること（相手意識と戦略）が大事。
- ①何をしているのかを知ってもらう②目的や役割などを理解してもらう③何か関わることではないかなという気持ちになってもらうこと。とにかくまずは知ってもらうことから始めよう。

〔大分合同新聞社地域連携室長 三股秀明氏〕

- 新聞は、最初の段落に5W1Hの情報が結論を含めて全て入るようにすることで、忙しい時でも概要がすぐに分かるようにしている。
- 記事の見出しは内容が端的に分かるようにつける。また、興味をもって読んでもらうためには、見出しですこし遊んでみることも大事。



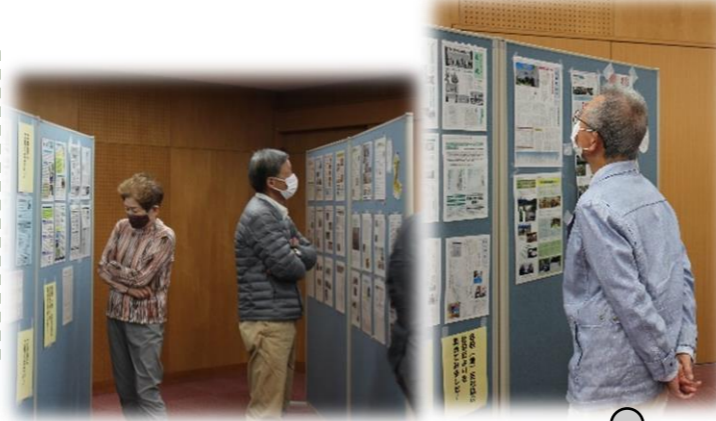
【広報誌を作る際のポイント】

- 1面が挨拶や役員紹介のみだと目を引かない。可能であれば配置の工夫をして、1面に活動内容が伝わるものをもってくと読むきっかけになる。
- 人が写っている写真は興味を引く。誌面の中央に写真を載せると目を引く誌面になる。
- 個人情報の問題で顔を出せない場合は「顔を写さず後ろから撮る」という方法もある。たとえば何か工作をしている様子を後ろから撮れば、一生懸命に何かを作っていることが伝わり、被写体が何をしているのか伝わる写真になる。正面だけでなく、あらゆる角度から写真をとっておくことも大事。

など…

〔参加者からの感想〕

- 誌面作りを具体的に教えていただき、とても役に立った。早速実践したい。これから新聞を読むとき、楽しみが出来た。見方が変わる。
- 今年は見出しを頑張ってみます。
- 広報誌の研修が初めてで参考になりました。



広報活動は、多くの人に活動を知ってもらうための第一歩！

災害「にも」強い地域を目指して！

災害発生前後の「避難行動」、被災後の「生活復旧」等のフェーズ（局面）ごとの行動や、市社協が災害ボランティア活動に関わる理由などについて、平常時から地域活動を行い、地域を支えている皆さんと考える時間となりました。〔令和3年12月6日（月）開催〕

災害発生前後（避難行動）

【避難に関する連絡体制づくりが必要】

- 「避難指示」で必ず避難しよう！
- 災害時に自治委員や民生委員のみでの安否確認は困難。連絡体制の構築が必要。（大分市福祉保健部福祉保健課）



災害発生後（復旧活動）

【市社協が災害ボランティア活動に関わる理由】

- 平常時からボランティアセンター（ボランティアしたい人としてほしい人の調整機能）があり、校（地）区社協をはじめ地域の様々な方との関わりがあります。
- 【災害ボランティアセンターが行うこと】
被災地域の関係者と連携しながら被災して困っている方を把握し、ボランティアの方と協力しながら支援を行います。



平常時からの備え（活動事例）

【津留地区（岩田町2丁目防災幹事会）での取り組み】
岩田町2丁目では、避難行動要支援者だけでなくふれあい対象者等の要支援者も対象に、避難行動などの備えに取り組み、必要に応じて関係者（自治会長、防災会幹事、防災士、民生委員等）で情報共有を行っています。



★市社協の活動との連携方法について協議しました

【被災した場合の動きについての意見】

- 回覧で自治会内に災害ボランティアセンターを周知出来ると良いのでは。
- 地域で把握したニーズを市社協に伝達できる体制をつくる必要がある。

【その他の意見】

- 平常時も災害ボランティアセンターに関する周知をした方が良い。…など

〔参加者からの感想〕

- 災害ボランティアを詳しく知らなかったのがためになった。
- 「被災地内でのボランティア対応に」という流れになってきているという話を受け、校区社協で何か出来るかを考えていこうと思いました。

平常時から災害にどのように備え、対応するか…少しずつ考えてみるのが大事！

今後も各校（地）区社協の活動状況等を発信していきます！

【お問い合わせ先】大分市社協 地域福祉課 地域福祉係
☎ 547-7418 ✉ tfukusi@oita-syakyo.jp